

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード西岡ルーム SGTクラス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いスペースを活かした清潔で心地よい環境が整っており、子どもたちが安心感をもって楽しく通所できている点が強みです。保護者様からのアンケートでも、「子どもが通所を楽しみにしている」「安心感を持って通所している」という点で全員から高い評価をいただいております。	定期的なお便りの発行やホームページ、SNS等を積極的に活用し、日々の活動の様子や行事予定をこまめに発信することで、ご家庭に安心をお届けできるよう意識して取り組んでおります。	集団でのスポーツ活動の中にも、一人ひとりのお子様の特性や発達状況にしっかりと寄り添ったきめ細やかなサポートを一層深めてまいります。
2	SGTクラスの最大の特徴である「サッカー」を通じた本格的なスポーツ療育や、経験豊富な理学療法士による体幹トレーニングなど、専門的な支援を提供できている点が強みです。スポーツを通じて基礎体力向上だけでなく、協調性や対人能力の育成にも繋がっています。	サッカークラブチームとして公式戦や遠征に参加するなど、スポーツを通じて失敗や成功の経験を積み重ねる機会を作り、子どもたちの「できた！」という喜びから自信と自己肯定感を高めるアプローチを意識的に行っています。	土曜日の外出体験（お米作りや夏祭りなど）をさらに充実させ、サッカー以外の様々な活動を通じて、子どもたちが社会性やルール、チームワークを学べる機会を増やしていきます。
3	活動プログラムが固定化しないよう工夫しており、子どもたちが常に新鮮な気持ちで楽しみながら参加できる環境を作っている点です。日々の活動だけでなく、土曜日にはスキーなどの季節のイベントも積極的に取り入れ、子どもたちの意欲を引き出しています。	支援開始前は必ず職員間で打ち合わせを行い、日々の支援の振り返りを徹底しています。専門スタッフの視点を交え、チーム全体で連携して一人ひとりのお子様に合わせて療育を提供できるよう工夫しています。	日頃からお子様の状況を保護者様と共有し、健康や発達についての共通理解をさらに深めていきます。施設とご家庭が一体となって子どもたちの成長を支える連携体制をより一層充実させてまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害時に向けた定期的な避難・救出訓練の実施や、安全確保のための計画について、保護者の皆様へのご案内や周知がやや不足している点に課題を感じております。	安全管理や防災に関するマニュアルの策定・取り組み自体は進めているものの、実施した内容を保護者の皆様へ分かりやすくタイムリーにお伝えするための「発信の仕組み」や「周知の工夫」がまだ不十分であったと考えております。	今後は、非常時に備えた避難訓練を計画的に実施し、その様子や施設の安全対策をお便りやSNS等を通じて保護者の皆様へ積極的に「見える化」し、さらなる安心に繋げてまいります。
2	保護者様を対象とした「家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等の勉強会など）」の実施や、保護者様同士が交流できる機会の設定が少なく、ご家族へのサポート体制に改善の余地がある。	専門的なスポーツ指導や日々の手厚い支援体制の整備に注力する一方で、ご家族向けの学習会の企画や、地域社会・関係機関と連携したイベントの準備にまで十分な時間を割くことができておりませんでした。	ご家庭での子育てのヒントとなるような家族支援プログラム（勉強会など）を定期的に開催し、保護者様同士が気軽にお話できる交流の場や、専門スタッフに相談しやすい環境づくりに努めてまいります。
3	地域の児童館や他のお子様と交流する機会、または地域イベントへの参加など、事業所の外のコミュニティと接する機会が少ない点が今後の改善課題として挙げられます。	当ルームは令和7年4月にオープンして以来、まずは子どもたちが安全・安心して過ごせるルーム内の環境づくりと、日々のスポーツ療育体制の構築を最優先に取り組んできたことが要因として挙げられます。	地域の児童館等との交流機会や、地域に開かれた行事を少しずつ計画し、子どもたちがより広い社会と関わりながら成長できるよう、外部機関や地域社会と連携した支援体制を構築してまいります。